

本に見つける励ましの言葉



日出問るり

神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻
[657-8501] 神戸市灘区六甲台町1-1
准教授, 博士(農学).
専門は複雑流体のレオロジー.
hidema@port.kobe-u.ac.jp
<http://www2.kobe-u.ac.jp/~hidema/fluparlab/>

唐突だが、私の趣味はノンフィクションを読むことだ。以前、成毛眞氏の著書を上司に勧められ、読んだところどれも非常に面白い。さらに成毛氏はノンフィクション好きなので、著書の最後にオススメ本の書評があり、この書評が人に本を読む気にさせる、素晴らしいものだった。以来、成毛氏オススメ本やHONZ¹⁾という書評サイトのオススメ本を読んでいる。そして、面白い本を読んだら、人に教えてあげたい。そこで、「仕事と私事」には、私が読んだ本の中から、これは仕事のヒントになりそうという本を私の感想を交えて紹介することにした。

仕事に取り組む際の心構えを教えてくださいのオススメ本は、元警視庁捜査第一課長の久保正行氏の「君は一流の刑事になれ²⁾」だ。この本は一流のデカを目指す者の心構えや行動を、実際に起きた事件をもとに久保氏が熱弁する本だ。曰く、「捜査とは、真っ暗闇から一筋のわずかな光を探し出し、次第にその光を広げていくようなもの」。ゆえに、捜査には乗り越えるべき壁が存在する。「しかし、刑事がやらねば誰がやるのか。」これらの文章の、捜査を研究に、刑事を研究者に変換して読んでみると、なんと、刑事と研究者が似たような職種であることに気が付くではないか。研究へのモチベーションがアップすること間違いなしだ。

研究者の自伝で面白いのは、「ご冗談でしょう、ファインマンさん³⁾」のシリーズや、「マリス博士の奇想天外な人生⁴⁾」だ。ファインマンさんシリーズでは、ファインマン先生の自慢話も面白いが、ファインマン先生が悩んでいた部分にむしろ親しみがわいた。授業の準備を初めてした際にかなりのエネルギーを要して、研究する気力が減ったという話だが、このエピソードは私自身が初めて授業資料を作った際にかなりの心の支えとなった。マリス博士のほうは、マリス先生がさまざまなこと(自分の脳波で隣家の照明を消したり、星座占いに没頭したり)に興味をもつ様子をただ楽しんだり、そういうリラックスした生き方が良い研究を導くのだなと納得したり。実際、本の最後にマリス先生はリラックスしようではないか、と読者に声をかける。ノーベル賞受賞者からのそんな言葉には安心させられる。

「量子革命 アインシュタインとボーア、偉大なる頭脳の激突⁵⁾」の中でも、さまざまな天才科学者の生き方を垣間見られる。偉大な研究者は、人柄も魅力的だと思う。とくに印象に残ったのは、ボーア、ハイゼンベルグ、パウリの関係だ。ボーアは若い研究者を指導する際、よく徒歩旅行に誘った。歩きながら、研究の話、自分自身の話をするうちに、若い研究者はボーアにすっかり魅了され、研究への意欲や勇気が湧いてくる。私自身の留学中のことを思い出しても、ヨーロッパの科学者は研究以外のかかわりも大切にしているように思う。そのような何気ない会話から、アイデアが生まれてくるのだと改めて感じた。

少し方向がずれるが、良い仕事には時間がかかると思わせる、徹底した調査で人を感動させる本としては、「不死細胞ヒーラ ヘンリエッタ・ラックスの永遠なる人生⁶⁾」がオススメだ。この本は世界中の研究室で使われながら、ごく最近までほとんど知られていなかった、HeLa細胞の持ち主Henrietta Lacksと残された家族の存在、そして、HeLa細胞の背景を世界に知らしめた感動の物語だ。細胞の背景には、お金と人権と科学の発展という実にさまざまな話題が絡んでいて、研究者としては読むべきかもしれない。

ここに紹介した本はどれも、明日の私の研究には直接かかわらないが、私に影響を与え、研究への憧れや情熱を思い出させる本だ。もし研究に悩んだり疲れたりしたら、自分が好きな本を眺めるのは良い方法かと思う。実際、久保氏は言い切る。「『諦めたい、逃げ出したい、不安だ』という心境に追い込まれたら、この本をもう一度読んでください。この中に解決があります。』お試しあれ。

- 1) HONZ 読みたい本が、きっと見つかる!, 閲覧日: 2022/03/01
- 2) “君は一流の刑事になれ”, 久保正行, 東京法令出版, 東京 (2010)
- 3) “ご冗談でしょう, ファインマンさん I ノーベル物理学者の自伝”, R・P ファインマン, 岩波書店, 東京 (1986)
- 4) “マリス博士の奇想天外な人生”, キャリー・マリス, 早川書房, 東京 (2004)
- 5) “量子革命 アインシュタインとボーア, 偉大なる頭脳の激突”, マンジット・クマール, 新潮社, 東京 (2013)
- 6) “不死細胞ヒーラ ヘンリエッタ・ラックスの永遠なる人生”, レベッカ・スクルト, 講談社, 東京 (2011)